

# 道産ホンシメジとムキタケの実用化への取り組み

(有) 福田農園 福田将仁  
利用部 微生物グループ 宜寿次盛生

## 背景

消費ニーズの多様化に伴い、食用きのこも新しい種類、多様な品種が求められています。これまでに林産試験場が開発して、まだ実用化されていない有望な新規きのこのひとつに「ムキタケ」があります。また、昔から「香りマツタケ味シメジ」と言われる「ホンシメジ」の栽培が最近可能になりました。これら「新規きのこ」について、品種開発や栽培技術の改良、モデル事業を活用した実用化への取り組みなどを紹介します。

## 内容および成果



ホンシメジ

写真：新品種きのこ事業化モデル事業コンソーシアム

ホンシメジは菌根性きのこで人工栽培は困難でした。平成5年滋賀県で初めて栽培に成功しました。

ムキタケは、食感が良く、クセがないのでいろいろな料理に合う美味しいきのこです。

林産試では、昭和50年代に栽培技術（原木栽培、菌床栽培）と品種の開発を行いました。



ムキタケ

写真：福田農園

### ホンシメジ栽培技術の改善 民間共同研究 H18-20

- ・栽培条件や培養期間が収量に与える影響を検討しました。

### ムキタケの再評価 重点研究 H19-20

- ・野生株を含めた栽培試験  
林産試のムキタケは、開発から20年以上経過していますが、安定した栽培が可能でした。
- ・新たに**機能性**も明らかになりました。

## 「新品種きのこ事業化モデル事業」 H21-22



写真：新品種きのこ事業化モデル事業コンソーシアム

### 受託企業「新品種きのこ事業化モデル事業コンソーシアム」での取り組み

- ・実生産施設での栽培試験
- ・試験販売～市場性の調査

新たな成果を活用し技術指導



写真：福田農園



写真：福田農園

道内生産者が使用できる独自品種が必要

寄附金活用研究  
H22-24

林産試で**新品種開発**を継続中

### 受託企業「福田農園」での取り組み

- ・品種の比較検討、栽培容器の選定など
  - ・実生産施設での栽培試験～市場性の調査
- 平成23年10月～ムキタケの販売開始**

## 今後の展開

林産試験場は、道内のきのこ生産者や企業の方々の**独自ブランドづくり**に協力していきます。